

もうひとつの「水都大阪2009」 龍王宮プロジェクト祝祭

'Celebration of Ryuoukyu'

こりあんコミュニティ研究会は、2009年3月発足当時から、重要な研究対象地域として、大阪在住の済州島出身者の文化的・宗教的拠点であったJR桜ノ宮駅近くの龍王宮を調査、研究しているが、この場所は不法占拠地域として近く行政によって撤去を余儀なくされている。撤去される前に、できるだけ龍王宮の歴史やその意味を記録、記憶しようと、こりあんコミュニティ研究会では、毎月その場所で定例研究会を開催しながら、その場所の価値を周知のものにしていくと活動しているが、さらに多くの方々に知ってもらうために、龍王宮祝祭準備チーム(都市研究プラザ全泓奎准教授、神戸女学院大学非常勤講師の藤井幸之助氏、G-COE特別研究員の本岡拓哉、宮下良子、都市研究プラザ研究員の黒木宏一)を結成し、2009年8月22日(土)に龍王宮祝祭を開催した。

当日のプログラムの第1部は、大阪リバーサイドホテルに於いて、朴保氏のミニライブと「大阪の済州人(チェジュサラム)と龍王宮」にまつわるリレートークが行われた。特に、「水辺のクッー龍王宮・箱作・済州島」-飯田剛史氏(大谷大学教授)、「大阪の済州人(チェジュサラム)の祈り」-高正子氏(神戸大学非常勤講師)、「在日二世から見た、済州人出身一世の習俗の断片」-玄善允氏(関西学院大学非常勤講師)、「私は『シンバン』の祭礼を受けた。」-金時鐘氏(詩人)のリレートークでは、それぞれのテーマに関する思いが語られ、客席からも活発な意見が発せられた。既に新聞等で広報されていた龍王宮祝祭に関する記事を読み、急遽参加したという一般の女性や、子供連れの男性の姿もあり、さまざまな層の人々の関心が龍王宮に寄せられているという現状が窺い知れた。

また、第2部では、参加者全員で、龍王宮のフィールドワ



大阪リバーサイドホテルでのリレートーク

ークを行い、第3部では、毛馬桜ノ宮公園に於いて、中川眞(文学研究科教授)が主宰する「マルガサリ」(ガムラン合奏団)の演奏を中心とした野外ライブが実演された。そのマルガサリの演奏とコラボレーションした詩の朗読、ジャワやタイの舞踏は、空間を超越した静寂さを象徴していたが、朴実氏(京都・東九条CANフォーラム)のアクセントのある独特のリズムのチャング(韓国の打楽器)が加わると、いつの間にか広場の中心には、参加者の踊りの輪ができていた。

■宮下良子(G-COE特別研究員)



毛馬桜ノ宮公園での野外ライブ

Since its inception in March 2009, the Korean Community Studies Group has been surveying and researching the Ryuoukyu (Dragon King Palace) near the JR Sakuranomiya Station that was the cultural and religious center for immigrants from Jeju Island who were living in Osaka. In order to record and remember its history and have it more widely known, a 'Celebration of Ryuoukyu' was held on Saturday, August 22. The first part of the program was a mini-live performance and relay talk at the Osaka Riverside Hotel, the second part consisted of field work at the Ryuoukyu, and the third part was an outdoor performance held at Kema Sakuranomiya Park. While this 'Celebration of Ryuoukyu' was a first experiment, to what extent the results of having obtained the cooperation of many supporters and volunteer staff will feed back into a shared multicultural society is an important issue for the future.